

風 か ほ る

校長 石原 健

謹賀新年

あけましておめでとうございます

皆様の御健康と御多幸を心よりお祈り申し上げます
本年もよろしくお願いいたします



今年の干支は？

2026年（令和8年）は、本当に良い天気、まさに「日本晴れ」というにふさわしい天候で始まりました。「初日の出を！」と予定していた方々にとっては、最高の初日の出を拝むことが出来たのではないのでしょうか。

今年の干支は皆さんご存知の通り「午年」です。午年にあたって午年について少し調べてみました。馬は力強く、俊敏に前へ前へと駆け抜けるところから、「前進」や「飛躍」の象徴といわれています。過去の午年にはそれに当てはまる事象が多く、古くは、織田信長が明智光秀に急襲され自害した本能寺の変（1582年）、赤穂浪士の討ち入り（1702年）などがあり、いずれも目的を果たすために突き進んだ行動でした。

そもそも干支（十二支）は、単に年を区別する記号的な役割ではなく、「自然界のエネルギーの流れ」、「季節の移り変わり」、「人の行動の節目」を象徴する文化的な指標でもあります。そのような視点で見ると、午年は「生命エネルギーのピークを象徴」、「成長の最盛期」、「勢いの頂点」という意味を担い、非常に縁起の良い存在とされており、「跳ねる、駆ける、達成する」がキーワードとなります。競走馬のように一気に駆け抜ける年になるのか、農耕馬のように力強く実りをはぐくむ年になるのか…午年をポジティブに捉え、馬が力強く、スピーディーに草原を駆け抜けるように躍動感にあふれ、前へ前へと進んでいく1年にして欲しいと思います。

年末年始のスポーツ中継から

2学期の終業式でもお話ししたように年末年始は様々なスポーツ中継が数多くあり、大いに楽しみました。この年末年始に行われている大会は主に高校生、大学生の大会でアマチュアスポーツの大会となります。今年開催のワールドベースボールクラシック（WBC）やサッカーワールドカップのようなプロフェッショナルの大会は、その競技の最高峰の大会としてとてもおもしろいのは当然です。しかし、プロと違ったアマチュアの大会は、高校生だったら3年間、大学生だったら4年間という決められた時間の中、勉強や就職活動など学生がやるべき事との両立をしながらその競技に打ち込み、日本一を目指すという姿に私は心惹かれます。日本一（優勝）はたった1チームしかありません。その座を目指し、勝利に対し一生懸命になる姿が私はとても大好きです。加えて、競技レベルや人間的にも未完成であるが故、様々なドラマが起きるのが、このアマチュアスポーツの面白さであり、「下馬評通りの結果にならない」、「優勝候補と呼ばれている学校が優勝しない」というシーンもプロの試合よりも多いのではないのでしょうか。古くはありますがドイツのサッカー選手でかつて「皇帝」言われたベッケンバウワーが言った言葉に「強いものが勝つのではない。勝ったものが強いのだ。」というものがあります。多くの人たちは、優勝候補だから、強豪校だから勝つと思ってしまう人が多いのですが、勝つことが難しいと思われる相手に対しても絶対に勝てないという事ではなく、戦い方によっては思いもよらない結果になることも少なくありません。この年末年始の大会でもそんなチームの姿を数多く見ることができ、学生スポーツの良さを再認識しました。

～三学期始業式校長講話より～